

3月の生活表

2019年 3月

聖マリア幼稚園

月主題：期待する

・保育日数 （19日）

月目標：・ イエスさまが共に歩んでくださったことに感謝し、これからも共にいてくださることを信じ、安心と希望をもつ。

- ・ 友だちや保育者に信頼を寄せ、満足して過ごす。
- ・ お互いの成長を喜び、新しい生活に期待をもつ。

「3月16日には、緑組さんのおしまいの日になります。」という「春のつどい」のおしまいのご挨拶での言葉です。赤組さんがしっかり、「春のつどい」にお越し頂いたことへの御礼と、来る卒園式のご案内を伝えてくれました。そうなんですね。この園で1年間あるいは、4年間というその期間の違いはあるものの、この聖マリア幼稚園で過ごしていただき、当園の幼児教育を受けていただいたことには違いありません。そして、それは、神様がここに導いてくださったということなのですね。神様がいつも私たちを守って下さっているということ、子ども達は感じていたでしょう。そんな日々の中で、子ども達は、今のクラスと「さよなら」をして次のクラスに進級するという事は、一つ大きくなるということも子ども達は認識しているはずで。例えちっちゃな小花であったとしても、「春のつどい」のおしまいに「4月に4月になったなら・・・」と歌った歌により、花組になるということを知り、大きくなるということにも繋がったでしょう。そして、花組も、赤組も、もちろん緑組も、歌う歌声が次第に大きくなり、しっかりしてきたことを、お客さま方もお気づきになられたことでしょう。特に緑組は、もう幼稚園からいなくなるのです。「さよなら」するのです。「思い出のアルバム」でたくさんのお母様方が目頭を熱くされたことはまさしくそのことですね。その涙には、この時まで神様にお守りいただいたこと、一番手のかかる時にいろいろ心配させられたことを思い出し、またここまで成長したことへの感謝など、様々な思いの表れなのでしょう。そして、これから先の長～い人生において、どんな嬉しい、どんなに辛い環境に置かれてたとしても、基本自分で乗り越えていかねばならないという見えない、人生の喜怒哀楽を平穏無事に過ごしてほしいという願いを持たれているのではないかと思います。また花組、赤組の方々も、「春のつどい」で観ていただいた、それぞれのクラスの取り組みを通して、1年だけの違いなのにできるのかしら?!と思っただけで観ておられたかもしれません。それが不思議とできるようになるのですね。この1年の違いの大きいこと、また確かなものをしっかり開花させていく力を持っていることに私たちは、喜びと、期待を持ち、祈りをもって子ども達の成長を神様に委ねます。それは神様が草木の命を守るように、その子にあったお日様と水を蒔き、それぞれの成長に欠かせない挑戦や満足や時には不安も含め、満足し、happyをお与くださるのです。共に、子ども達の成長を感謝し、新しい出発へのエールを送りましょう。ご卒園、ご進級おめでとうございます。春休みという短期間の休暇に新しい出発への心身の切り替えをいたしましょうね。

《 チャプレンコーナー 》 3月

月聖句：光の子として歩きなさい。（エフェソの信徒への手紙 5：8）

今年度の最後の月です。一年間の総仕上げであり、新たな出発に向けて準備する月です。それは同時に、一年間慣れ親しんだ状況からお別れすることでもあります。今までのプレプレ、小花、花、赤、緑から、一つ上の学年になります。特に緑組さんは、幼稚園にお別れして、小学校という新しい世界に旅立ちます。不安と同時に、期待が大きく膨らむ時でしょう。

毎年この月の主題聖句は、「光の子として歩みなさい」を選んでいきます。これは3月に最もふさわしい聖句だと思います。子どもたちへの、神様からの祝福の言葉であり、大人からの励ましの言葉です。明るく、元気で、正しい、愛の光として、これから広い世界に羽ばたいてもらいたいと思います。

光は希望です。希望は私たちの世界にとって最も大切なものの一つです。希望が世界に平和をもたらします。希望は喜びと共に、私たちの務めです。世界の希望となるように、人を愛し、正しいことを行うのは、私たちの義務です。だからそのような大切なものを、子どもだけに押し付けてはいけません。愛する子どもに「光の子」となってほしいのであれば、まず私たち大人が「光」にならなくてはなりません。自ら率先して光となり、自分の光で子どもたちを照らし、子どもたちのお手本となるようにしなければなりません。最近、大人の世界では、光から遠ざかっていることが多いような気がします。責任ある地位にある人が、その責任に反するような言行を行っていることが多いようです。ニュースなどを、子どもに説明しにくい経験をした方も多いと思います。大人が率先して世界の光となり、子どもたちに希望を与え、子どもも大人も一緒に、神様の愛の光となって歩んでゆきたいです。

おたんじょうび おめでとうございます

5日： みむら けいごくん

13日： さとう しゅうたろうくん

16日： はやの みちるさん

20日： さとう あらたくん

21日： しかた ゆうきくん

24日： もりもと しんじろうくん

30日： たぐち ゆきおくん

<生活指導>

☆ 進級・入学を迎えるにあたり、基本的な生活習慣の見直しをしましょう。

- ・ この一年の振り返りを行い、この時を迎えたことについて親子で話し合い、様々な方への感謝と共に、神様への感謝の祈りを捧げてみましょう。
- ・ 春休みの間に日々の生活時間がルーズにならないように、できるだけ規則正しく行えるように考えてみましょう。
- ・ 体調を整えるために、食事 / 就寝及び起床時間 / 手洗い、うがい等に気をつけましょう。
- ・ 大きくなることへの最終準備として、自分のことは自分でできるよう心がけてみましょう。

☆ 物を大切にしましょう。

- ・ 進級・入学に際し、再度自分の持ち物を確認し、整理整頓してみましょう。

☆ 春の訪れを感じながら、自然の変化を全身で受け止めてみましょう。

- ・ 戸外で遊ぶことにより、五感を駆使してみましょう。(目・鼻・手・耳・口)
そして、心で感じたことも、言葉を使って自分の思いを表現してみましょう。

☆ 交通安全を心がけましょう。

- ・ 春休みの間も交通事故・怪我等に万全の注意を払いましょう。
- ・ 子どもさんとは手を繋いで歩きましょう。また、親子で自転車での外出をされる時は、必ず子どもを先に行かせましょう。(後ろには目が有りませんので。)

<こひつじの会よりひとこと>： 3月も、複数の幹事さんの投稿になります。

いよいよ卒園の時期を迎えます。朝一番に登園し、長期休暇中もほぼ幼稚園にお預かり頂いた娘。3年間、ほんとうにお世話になりありがとうございました。ほとんどお休みせず健康で過ごせたことにも感謝です。大きくなっていく我が子を見て少し寂しさも覚える今日この頃ですが、小学生になれることにワクワクしている娘を親として上手くサポートしていこうと思います。

他の幹事の皆様や先生方、こひつじの会の皆様に多くのお助けを頂きましたことに感謝しております。ありがとうございました。

緑組 米田 育美 (会計)

「春の集い」も終わり、もういよいよ今年度の終わりが見えてきました。「春の集い」での子もたちの顔もすっかりお兄さん、お姉さんになっていて、次を向いているように感じ、1年の成長は本当に凄いなあと改めて感じた1日でした。娘も毎日「4がつ〜に4がつ〜になった〜なら〜♪」と口ずさみ、もうすぐ赤組さんになれる事が楽しみでたまらないようです。どんどん成長していく娘を見ていて、嬉しいような、ちょっぴり寂しいような…でもやっぱりこれからが楽しみな、そんな想いの今日この頃です。

今年度させていただいた、幹事というお役も、終わりが見えてきました。沢山のお母さん方に助けられ、先生方に助言いただき、この1年間を無事に終われる事を、心から感謝申し上げます。1年を通して色々な行事に関わらせていただき、今まで見えていなかった部分が見えたり、気付いたり、とても濃厚な1年を過ごさせていただきました。今後、少しずつスリム化はしつつも、この小さな幼稚園ならではの暖かくて濃い保護者同士の関係、保護者と幼稚園の関係はこれからもあって欲しいなあと思います。4月、幹事をして間もない時に、「やって良かった、楽しかった」と思って終えたいなと勝手に考えていました。1年間色々ありましたが、終わりを間近に迎えた今、幹事をして良かった〜と、心から感じています。もちろん大変な時もありましたが、みんなでワイワイ言いながらの作業も私は嫌いではなく、とても楽しかったです。この1年一緒に幹事をした仲間、先生方、保護者の皆様に感謝です。本当にありがとうございました♡ 花組 真辺 舞 (会計)

長男がマリア幼稚園に初めてお世話になったのが、約6年前でした。右も左も分からずに、狼狽えるばかりの私を園長先生をはじめ、全ての先生、たくさんのお母さん方がいつも温かく、優しく導いて下さいました。一人で子育てをしていた孤独な時間が嘘のように、気がつけば、私もマリアの家族の一人として、自分の居場所をここに貰ったような気持ちになりました。

やっと、引き受けることが出来た幹事のお役目も残りわずかとなりました。今は安堵感と少しの寂しさに包まれています。この一年を振り返ると、真っ先に頭に浮かぶのは、子供たちと皆様の幸せいっぱい笑顔です。幹事のお仕事をさせて頂く時は、いつも、どうしたら皆さんが喜んでくれるかな、楽しんでくれるかな、そんなことばかり考えていました。そして、活動が終わる度に、想像を超える笑顔やお言葉をもらいました。皆様のおかげで、充実した時間を過ごさせていただきましたことに、心より感謝申し上げます。

これからもマリア幼稚園が多くの方の心の拠り所となり、ここで愛された子供たちが清らかな花を咲かせてくれますよう、お祈りしております。先生方、皆様、ありがとうございました。

赤組 上野雅世 (頒布)

日差しが日に日に暖くなり、赤組の長男はルーペを片手に、春の訪れを観察しながら、通園の道のりを楽しんでおります。早いもので今年度もあと数週間で終わろうとしています。

マリア幼稚園でお世話になった小学4年生の長女とは卒園して以降も“マリア幼稚園で育てて頂

いて本当に良かった！！”と話すことが度々あり、感謝の思いは深まるばかりです。今までお世話になった幼稚園へ少しでも恩返しができれば…、保護者の皆様に幼稚園生活を楽しんで頂けるようお手伝いができれば…、という一心で幹事のお役を引き受けさせて頂きましたが、園長先生はじめ、先生方、皆様にはいつも助けて頂き、沢山の優しいお言葉を掛けて頂いて、こちらの方が多くのことを教わる一年であったと感じております。幹事の仕事を通じて、これまで以上に先生方、お母さま方とお話しする機会が増えました。一緒に仕事をした幹事の仲間とは、濃密な時間を持つことができました。皆様のおかげで本当に充実した毎日でした。ご心配やご迷惑も多々お掛けしたことと思いますが、一年間を何とか無事に過ごせたこと、皆様より沢山のご協力を頂きましたこと、心より感謝申し上げます。

来年度は私たち親子共にとり、いよいよマリア生活最後の一年になります。一日一日を大切に皆様と一緒に楽しく過ごして参りたいと思います。

先生方、皆様、本当に有り難うございました。

赤組 土井 美行 (会長)

<クラスだより>

花組

♪は～るがきた は～るがきた どこにきた～♪「このお歌、めっちゃ好きやねん」と歌いながら朝の用意をすすめる男の子。窓飾りのミカンを頭に乗せた猪が、いつの間にか桃や梅の花に囲まれていることに気が付いた花組さんは「赤組さんの劇ごっこやなあ、桜が咲いた」と眺めていました。いやいや、桜が咲くにはまだ早いぞ！っと、子どもたちの名札を見せました。桜の花びらはハートのようにふたつのお山があることを知らせると、窓飾りの花々は花びらが二つには分れていないし、色も違うことに改めて気が付いた子どもたち。季節は巡り巡って春がやって来ます…入園からまもなく一年。気が付けば子どもたちは身の回りにあるものや人、見えないものに気が付き、目や鼻や耳を使って関心を増し興味を広げて園生活を自分の力でいつの間にか楽しめるようになりました。幼稚園に行ったら〇〇しよう！〇〇ちゃんといっしょに遊びたい！自分のしたいことを見つけ、期待し胸を弾ませて登園して来てくれることが私たちには何よりうれしい成長だと思っています。その花組の成長には付かず離れず花組を支えてくれた緑組と赤組の存在が大きく影響しています。「春の集い」を機に、改めて「赤組さん緑組さんって？」とみんなで考えることにしました。練習が積んできたある日「お腹減って泣きそうになった」と花組さん。でもね、その花組さんのために、朝、椅子を運んで準備をし、お昼前のトイレに行っている間にまた椅子を2階に運んでくれる。手洗いに行けば「花組さんどうぞ」と先に譲ってくれる。劇や合奏の準備も全て整えてもらっている。自分たちのことだけではなく、小さな人を思って庇ってくれている、それが「お兄さんお姉さん」なのだと知らせました。そして練習を終えて保育室に戻ったらすぐにご飯が食べられるようにと、配膳を済ませてくれているプレプレの先生たちもまた、花組さんを思って準備してくさっていることに感謝なのだと話しました。すると子ども達は、話を素直に受けて「ありがとう」と緑組に

先生に伝えに行ったのです。「(プレプレの)先生に机拭いてくれてありがとうって言ったら、「かまへん かまへん」って言ってくれはった」と満足そうに報告する子どもの顔を見ていたら、大切なことは「子どもたちの気付きに大人も気付き、その気付きを通して何を共有し何を教えるか」なのだと改めて感じました。(お世話)してもらって当たり前ではないこと、気付いたことに自分がどうすべきか考えられる人になって欲しいと思うのです。4月になったら赤組さん。今まで沢山周りの人に助けてもらいました。やがて自分たちで生活の術を獲得し、自分の力でこなせること、手伝えることも増えました。そして今度は「お兄さんお姉さん」として、誰かを庇える大きな存在に一步近づきます。心身の発達、知識技能の獲得もとても大事なことです。同時に僅か1年の園生活を通して、大きくなることは目に見えるものだけではないことに身をもって私たちに示してくれた花組さん。これから自分の好きなものを見つけ、ますます活動の場を広げていくのでしょうか。あと僅かとなった花組生活。2階の保育室で、慣れ親しんだBOXやタオル掛け、仲良くなった金魚やおままごとコーナーで存分に遊び、進級へのエネルギーを蓄えて欲しいと思います。そして小花ちゃん！いよいよリーダーですよ～。6人の精鋭に期待が寄せられます♪

最後に…小さな可愛いお子様と出会い、大変充実した毎日を過ごすことが出来ました。また1年間のクラス運営、ご家庭との連携にご理解ご協力いただきましたこと、心より御礼申し上げます。そして、少し早いのですが…

24人のかわいい子どもたち、ご進級おめでとうございます！

赤組

暖かい春の光が感じられるようになってきました。プランターの中で小さな芽が、春を今か今かと待ち望んでいるかの様に、土から顔を出しています。この花々がきれいに咲く頃、赤組さんは緑組になっているのだなあと思うと、人も花も春に向けて準備を進めているのは同じだなと思う今日この頃です。

そんな中迎えた赤組として最後の行事「春の集い」。子ども達の成長した姿、そしてお友達同士、花組、緑組と楽しんで参加する姿を見て頂けたことと思います。

ただここに至るまでに、子ども達も私も、山あり谷ありであったことも事実です。やる事が決まっていき、みんなで頑張っていこう！と声をかけながらも、なかなかやる気にならない、そして何をやるにも浮足だっている、どこか他人事のようにしている、そんな赤組の子ども達にもどかしく感じたことがありました。時には「先生1人で劇ごっこしたほうが、上手にできるわ」と子ども達に投げかけてしまったこともありました。しかしここには、赤組の力はこんなものじゃないと、私の中に確信があったのです。私は続けて言いました。「できひんことを言っているわけじゃない。できるのに、それをしようとしない、そんな姿が赤組さんだと思われてほしくない」と。すると子ども達の顔つきが変わってきました。自分達の出番の前には自然と背筋が伸びるようになり、言われなくとも準備ができるようになってきました。そこからです。子ども達の真剣さが見られるよう

になってきたのです。そして私も劇ごっこでは台本を手放し、子ども達に任せることにしました。先生も本気なんだ、真剣なんだということが伝わったのか、必死な顔をしながら台詞を言う子ども達。練習の度に大きくなる拍手が力に変わっていき、楽しいの大好き！な赤組さんのオリジナルの劇ごっこが出来上がっていきました。お話自体は昔話でみんながよく知っているもの、そして台本は担任が子どもの人数などに合わせて作ったものでしたが、赤組1人1人の手によって演じられることで、本当に今の赤組がよく表れている劇ごっこになりました。必死な顔から、楽しいんだよ！ということが分かる顔になってきたのです。前日には、もう安心してみていられると思いました。子ども達も同じだったようで、それぞれに緊張はあったとは思いますが、どこか楽しみにしているような姿も感じられたのです。そして見てもらった通りの、歌、そして少しお笑い要素の強かった劇ごっこ、そして緑組さんとの最後のリズムバンドでした。

自分たちの劇ごっこが終わってほっとしたのも束の間。実は、自分達の劇ごっこが終わった後も気が抜けない赤組さんだったのです。次の緑組の劇ごっこの準備を任されている子がいたからです。大道具の出し入れ、大人にとっては簡単なことかもしれませんが。いや赤組さんも数日前までは、ただ出したらいいやと考えていたかもしれません。しかし舞台の真ん中を通らずに、さっと動く、そして出し終わったら後ろを通る、緑組さんの劇ごっこがスムーズに行くのは自分達にかかっているということを意識し、出し入れをすると、それがなかなか難しいことだったのです。また練習中こんな場面を目にしました。準備を任されている子がゲームに参加していて手が離せない、そんなお友達姿を見て、誰に言われるでもなく、自らそのお友達の役割を果たしてくれたのです。赤組として、緑組さんのためにするのは赤組に任された役割なんだということを自覚して、誰がやってもいい、とにかく緑組さんのためにという意識が働いての行動、そしてできないお友達がいたらすっと助けてあげる、そんな姿を目の当たりにしました。

また作品展の「福笑い」の絵画や共同制作として取り組んだ「鬼」、そして「お雛様」。ここでもそんな子ども達の姿がありました。共同制作の「鬼」はもちろんのこと、絵画とお雛様制作においても、困っている子がいたら積極的に「小さい先生やまーす！」と宣言して、困っているお友達を助け合う姿がありました。「鬼」の制作においても、1つの大きなものをみんなで作り上げるということで、自然と役割分担をして、助け合って作り上げたのです。

こんな赤組さんなら、緑組になっても大丈夫、こうして助け合って15人が成り立っているんだと感じ、自分のことで精一杯の子ども達がこんなにも人のために考えることができるようになるのだと成長を感じたのです。子ども達が成長するのと共に、私も子ども達に成長させてもらったと実感する日々でした。子どもとしてではなく、一人の人間として関わることができました。だからこそ私も本気で怒ったり、笑ったりしました。その本気を受け取り、本気で返してくれる子ども達。そんな本気の関わり合いをすることで、それぞれの力になることを知りました。その力がきっと子ども達にも、そして私の自信にもつながったのです。

こうして子ども達と楽しく過ごすことができたのも、保護者の皆様のご協力、ご理解があつてこ

そだと改めて感謝申し上げます。愉快的な赤組さんと一緒に、赤組として過ごすことができるのも、あと15日。いつも身近にいてお手本となってくれた、大好きな緑組さんと過ごすのも、あとわずかです。赤組さんの最後の役割として、卒園する緑組さんが安心して1年生になれるように、僕たち私たちに任せてと胸を張って言えるように、送り出したいですね。そして期待をもって進級できるように、赤組さんを応援したいと思います。

赤組のみなさん ご進級おめでとうございます。本当に本当にうれしいです。

緑組

12月に見学したプラネタリウム。日々の遊びの中で、自分たちのプラネタリウム作りに発展していきました。そこで「春の集い」の作品展は緑組最後の共同制作としてプラネタリウムを作ること提案し、自分たちが学んで来た12月の空を再現することにしました。担当する星座は、星座表とにらめっこ!! 多くの子どもは自分の星座を選んでいました。お家で星座のお話をお母さんからしてもらった子どももありました。(リズムバントのドナウ川)といい、お家の方がその話題を深めてくださったことに感謝致します。「春の集い」での思い出のアルバムの歌詞では、行く予定だった夏の思い出として歌わざるをえなかったのです。前例のない12月に行くことがどうなるのかと想像できませんでしたが、プラネタリウムの中のクリスマスのお話が自分たちの幼稚園だけのことでなく世の中でも知られていることだったことに大喜びでした。子どもたちも2学期ともなると、しっかりとお話を聞き興味関心に繋げていくことが出来て良かったと感じました。夜空となる黒のビニールに星のシールを貼りながら、「先生この星、手で覆うとなんか色が変わる!」と気が付きました。次々と「えー本当?」と星を手で隠し隙間から必死でのぞく子どもたち。「暗いと本当に光るんだよー」というと「本当やー!」でも昼間なので、言うほどには光りませんでした。そして春の集いの制作展の準備を終えたときのことで。もう外は真っ暗です。一番最後に戸締りをして降りてきて下さった、S先生が、「先生ー!すごいよーと!」大急ぎで呼びに来てくれたのです。お部屋の電気を消したとたん、星が満天の空に輝いたというのです。先生たちは大急ぎで2階に上がると、子どもたちが一生懸命に貼ってくれた星が 本当に光り輝いていて、その綺麗さに、しばし言葉を発することなく見つめていました。沢山の星に囲まれて子どもたちの星座も光り輝いておりました。あーこの綺麗に輝いている星を子どもたちに見せてあげたい! そう思わずにはいられませんでした。春の集いは残念ながら日中でしたので、光るところはご覧いただけませんでした。星座をお家に持ち帰ったらお部屋を真っ暗にして楽しんで下さいね。緑組さんが最後に教えていただく3月の聖句は「光の子として歩みなさい」です。星の様に太陽のように、蝋燭の光のようにと、それぞれの光り輝き方は違うでしょう。緑組さんの11人の個性は豊かで、それぞれが良い物を持っています。しかし個性を出し過ぎてしまうことも多く、ぶつかり合う事、主張しすぎてしまう事が多々ありました。自分一人が物凄く光ったとしても、一瞬注目されてもその輝きはどのくらい凄いかはわかりません。周りの輝きと比べることで、引き立つのです。一つの星の輝きが弱まった時には、周り

の星が力を合わせて輝きが弱まらないように輝いてあげる。そんなクラスになって貰いたいと願ってました。みんながいるから個性が輝くのです。お友だちを下さった神様に感謝です。星座の星を貼りながら「せんせー これってどうみても、うしやくじらにみえへんよなー」本当に星座はそういわれればそう見えますが、違うものにも見えます。答えは一つではないのです。自分たちの想像力で星を繋げたら、ちがうものに見えてもいいのです、マリア幼稚園から巣立って、小学校へいくと、出会ったことのないタイプのお友だちと出会うでしょう。いろんな考えや思いに出会い、お友だちの輪を広げて行けますように。

緑組さんの11人と楽しい一年間を過ごせましたことに感謝致します。わずか1歳2歳の差で吸収していくものが深くなり、興味関心が高度になっていき、私にとっても学びとなりました。そしてお家の皆様の温かいお見守りにも感謝致します。この幼稚園で子どもたちと大切な3年間（それぞれ過ごした年数は違いますが）を過ごせた事、子どもたちと巡り合わせてくださった神様のお導きも感謝！ 沢山の感謝とともに小学校へ送り出したいと思います。

緑組さんご卒園おめでとうございます。